

13:00 ~ 13:10 オープニング

鈴木興太郎（一橋大学経済研究所教授・競争政策研究センター所長）

公開セミナーにお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。競争政策研究センター所長の鈴木でございます。最初にごく簡単にごあいさつ申し上げたいと思います。

競争政策研究センターが出発したのは2003年6月、日本の独占禁止法の誕生から56年後です。この時間の経過が、日本において経済学者と法学者が競争政策の実務家と協働して研究する機構が誕生するまでに時間がかかったことを象徴しています。このセンターは、競争政策の理論的な基礎の研究や日本の競争政策の歴史とそのエボリューション、さらには日本及び世界の競争政策に関連する課題の分析を推進しています。また、センターの出発を記念し、Inaugural Symposium on Competition Policy という、かなり大きな会議を主催しましたが、その後も毎年国際シンポジウムや本日のような公開セミナーなどを主催し、競争政策の研究と実務に携わる各国の第一級の方々との交流を実現してきました。日本の競争政策を世界の競争政策のネットワークと緊密に結び付けたいと思つてのことです。

本日の公開セミナーは、このような試みの一つの企画であり、ネットワーク外部性と競争政策という共通論題の下に、ニューヨーク大学のニコラス・エコノミデス教授、カリフォルニア大学バークレー校のリチャード・ギルバート教授をお迎えし、またセンター側の実質的な企画に当たられた慶應義塾大学の田中辰雄助教授を交えて、講演とパネル討議をお願いするものであります。

最初に、今日の講演者をごく簡単にご紹介いたします。

第1番目のスピーカーは、慶應義塾大学の田中辰雄助教授です。田中さんは東京大学を卒業し、国際大学グローバル・コミュニケーション・センターの研究員として数年間を過ごされた後にコロンビア大学の客員研究員を3年勤められ、現在は慶應義塾大学経済学部にお勤めになっています。

研究の領域は計量経済学、情報通信産業の分析であり、とりわけ現在は、ネットワーク外部性の実証とその政策的含意及びコンテンツ産業の産業組織論的な経済分析をなさつていて、我々競争政策研究センターの研究員としてご活躍されています。そして、先ほど申しましたように、今日の公開セミナーの実質的なプロモーターとしての役割を果たしていただきました。

外国からお迎えした第1番目のスピーカーは、ニコラス・エコノミデス教授です。エコノミデス教授は現在ニューヨーク大学のレオナード・スターン・スクール・オブ・ビジネスの経済学教授でいらっしゃいます。

リサーチ・インタレストは非常に広範ではありますが、主に Telecommunications, Network Industries and Network Effects, それから Structure of Financial Markets, Industrial Organization, Law and Economics という分野にまたがっています。

教育としては、最初にロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで B S c (Bachelor of

Science) を、その後、MA (Master of Arts), PhD (Doctor of Philosophy) をカリフォルニア大学バークレー校でお取りになりました。現在では産業組織論の分野、とりわけ Telecommunications や Network Industries について非常に先端的で多産な研究活動をなさっていると同時に、政策的課題に対しても非常にインフルエンシャルな論陣を張っていらっしゃいます。また、この分野の代表的なジャーナル『International Journal of Industrial Organization』のエディターも務められており、非常に多岐に渡り、また非常に多産な活動を展開されています。

次に、リチャード・ギルバート教授をご紹介いたします。ギルバート教授は現在、カリフォルニア大学バークレー校の教授であると同時に、Department of Economics のチェアという重職にも就いていらっしゃいます。

研究領域も非常に広く、業績も非常にディープで重要なものが多々あります。また、政策的な分野においても非常に影響力のある大きな仕事をなさっています。一例だけ申し上げますと、1993 年から 1995 年に、アメリカ司法省の Antitrust Division において、司法省と FTC (Federal Trade Commission 連邦取引委員会) との間のタスクフォースをリードされ、「Antitrust Guideline for the Licensing of Intellectual Property」をおまとめになっています。

ジャーナル等でエディターの仕事をされる機会も多くあり、この分野の代表的な雑誌、例えば『Journal of Industrial Economics』や、あるいはまた理論一般の重要な雑誌である『Journal of Economic Theory』、さらには『Review of Industrial Organization』等でもアソシエイト・エディターとしての役割を果たしてこられたと同時に、Industrial Organization Society のプレジデントでもございました。

研究分野は Competition Policy, Intellectual Property, Research and Development, それから Energy Markets といったものを含み、非常に広い範囲の業績が多々あります。

こうした優れたスピーカーをお迎えし、今日の公開セミナーを開けることを非常にうれしく思うとともに、これからの講演を楽しみに伺いたいと思います。